

3) 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との中項目の比較

医療観察法指定入院医療機関退院後、通院処遇中の「性的な暴力」、「身体的な暴力」、「非身体的な暴力」、「医療への不順守」、「アルコール・物質関連問題」のいずれかの問題行動があった群10名と、それらの問題行動のなかった群71名との2群について、退院申請時の共通評価項目の各中項目を比較（t検定）した結果を表80～表96に挙げる。

表80～表86より、問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が見られたのは「自殺企図」、「共感性」、「非社会性」の3項目である。

表82より、「自殺企図」の項目は問題行動有り群10名が全員0点であり、 t (Welch) =2.59で問題行動なし群の方が5%水準で有意に高くなった。

表86より、「共感性」の項目では問題行動なし群 ($M=0.49$) よりも問題行動あり群 ($M=0.90$) の方が $t=2.08$ 、5%水準で有意に「共感性」の評点が高かった。

表87より、「非社会性」の項目では問題行動なし群 ($M=0.06$) よりも問題行動あり群 ($M=0.70$) の方が t (Welch) =2.45、5%水準で有意に「非社会性」の評点が高かった。

また17項目の合計点を比較すると、表97のように問題行動なし群 ($M=9.43$) よりも問題行動あり群 ($M=12.90$) の方が $t=2.32$ 、5%水準で有意に17項目の合計点が高かった。

4) 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との小項目の比較

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「精神病症状」の各小項目の比較（t検定）を表98～表103に挙げる。表98～表103より、問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が見られたのは「4）精神病的しぐさ」のみである。表101

に見られるように、「4）精神病的しぐさ」の項目は問題行動あり群10名が全員0点であり、 $t=2.85$ (Welch) で問題行動なし群の方が1%水準で有意に高くなった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「非精神病性症状」の各小項目の比較（t検定）を表104～表112に挙げる。表104～表112より、「非精神病性症状」の9の小項目ではいずれも問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が認められなかった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「内省・洞察」の各小項目の比較（t検定）を表113～表116に挙げる。表113～表116より、「内省・洞察」の4つの小項目ではいずれも問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が認められなかった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「生活能力」の各小項目の比較（t検定）を表117～表130に挙げる。表117～表130より、「生活能力」の14の小項目ではいずれも問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が認められなかった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「衝動コントロール」の各小項目の比較（t検定）を表131～表135に挙げる。表131～表135より、「衝動コントロール」の5つの小項目ではいずれも問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が認められなかった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「非社会性」の各小項目の比較（t検定）を表136～表145に挙げる。表136～表145より、「非社会性」の10の小項目ではいずれも問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が認められなかった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「現実的計画」の

各小項目の比較（t検定）を表146～表153に挙げる。表146～表153より、「現実的計画」の8つの小項目ではいずれも問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が認められなかった。

退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との2群での退院申請時の「治療・ケアの継続性」の各小項目の比較（t検定）を表154～表158に挙げる。表154～表158より、「治療・ケアの継続性」の5つの小項目では問題行動有り群と問題行動なし群との間に有意差が見られたのは「4）セルフモニタリング」の項目のみである。表157より「4）セルフモニタリング」の項目では問題行動なし群（M=0.68）よりも問題行動あり群（M=1.20）の方が $t=2.55$ 、5%水準で有意に「4）セルフモニタリング」の評点が高かった。

4. 考察

本研究では共通評価項目の予測妥当性の検討のため、医療観察法病棟退院後の精神保健福祉法の入院と、退院後の問題行動とを、共通評価項目の各項目の評定が予測し得るのか群間比較によって解析を行った。本研究グループによる一連の共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究は、医療観察法医療において全国共通の評価尺度である共通評価項目の標準化という重要な役割を担っているため、解析されたデータは極力公開するように推し進めている。本研究による予測妥当性の検討においても、医療観察法に関わる多くの方が参照できるよう、解析結果の全てを158枚の表として掲載した。しかし実際には有意差が認められた項目は少なく、本研究結果から言及できることは少ない。

まずN数の問題がある。共通評価項目は2008年4月1日付で改訂しており、それ以前のデータは解析に使えないため、本研究では2008年4月1日から2009年3月31日までの1

年間を対象のエントリー期間とし、1年半のフォロー期間において2010年10月1日付で追跡調査を行っている。その結果N数は精神保健福祉法有り群、退院後の問題行動有り群がいずれも10名と少なく、群間比較に耐え得るギリギリの数となっている。その結果、1つの中項目と3つの小項目で精神保健福祉法入院のあった群全員が評定0点のために、精神保健福祉法入院のなかった群の方が評定が有意に高いという結果が生じた。同様に、中項目と小項目1項目ずつにおいて問題行動のあった群全員が評定0点のために、問題行動のなかった群の方が評定が高いという結果が生じた。翻って精神保健福祉法入院なし群が入院有り群よりも有意に評定が高くなった項目では全て入院有り群の項目平均値は0であり、問題行動なし群が問題行動有り群より有意に評定が高くなった項目では全て問題行動有り群の項目平均値が0である。それ故これらの結果についてはN数が少ないことによる影響が少なからず出ていると考えられる。

一方で入院有り群が入院なし群より評定が高くなった項目は「生活能力」の小項目「1）生活リズム」のみである。共通評価項目を医療観察法の目的である社会復帰要因を測る尺度として考えるならば、地域に滞在し続けられることは重要な効果であるが、本研究の結果からは退院申請時の共通評価項目の評定は退院後の地域滞在継続を予測し得ていない。この点については今後N数を増やし、コックス回帰分析や重回帰分析を行うことで再検討する必要があるだろう。

西村ら（2011）による入院処遇期間と初回入院継続時の評定との関連の検証⁵⁾によれば、医療観察法入院が2年以上にわたる長期化群において、2年以内に退院した標準群よりも初回入院継続申請時の評定が高くなっている項目は「精神病症状」「非精神病性症状」「内省・洞察」「個人的支援」「現実的計画」であるが、

これらの項目はいずれも退院後の精神保健福祉法入院の有無や問題行動の有無において差が見られていない。これらの精神症状や内省についての項目が入院の長期化に関わっている一方で、退院後の問題行動で群間差が見られたのは「共感性」と「非社会性」といった変化しにくいパーソナリティ要因に関係が深い項目であったことは興味深い。「共感性」と「非社会性」が退院後の問題行動有り群において問題行動なし群よりも評定が高くなった点については、今後N数を増やした解析で再評価する必要があるが、リスクアセスメント

におけるパーソナリティ要因の重要性に関する示唆とも言える。また17項目の合計点が退院後の問題行動有り群において問題行動なし群よりも評定が高くなった点からは、現在までのところその意味が明らかにできていない合計点が、将来の問題行動の予測に関わっている可能性がうかがわれた。

本研究の結果からは以上のようなことが考察できるが、今後はN数を増やし、また追跡期間を延長し、コックス回帰分析や重回帰分析などの多変量解析を用いて予測妥当性の再検証が必要である。

表1 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：精神病症状

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	2.56		0.79	
平均	0.60	0.81	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.68	自由度2	53	両側P値	0.43
標準偏差	0.52	0.83	P値	0.13		

表2 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：非精神病性症状

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	1.21		0.37	
平均	1.00	1.09	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.44	0.54	自由度2	53	両側P値	0.71
標準偏差	0.67	0.73	P値	0.81		

表3 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：自殺企図

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			入院有りの標準偏差が0以下のため計算できない		統計量：t	
n	10	54			2.63	
平均	0.00	0.17			自由度	53.00
不偏分散	0.00	0.22			両側P値	0.01 *
標準偏差	0.00	0.47				

表4 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：内省・洞察

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	1.70		1.20	
平均	0.60	0.87	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.45	自由度2	53	両側P値	0.23
標準偏差	0.52	0.67	P値	0.40		

表5 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：生活能力

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.64	統計量：t	0.55
平均	1.00	1.11	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.22	0.36	自由度2	53	両側P値	0.58
標準偏差	0.47	0.60	P値	0.43		

表6 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：衝動コントロール

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.24	統計量：t	0.17
平均	0.50	0.46	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.50	0.40	自由度2	53	両側P値	0.87
標準偏差	0.71	0.64	P値	0.59		

表7 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：共感性

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.51	統計量：t	0.13
平均	0.60	0.57	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.49	0.32	自由度2	53	両側P値	0.90
標準偏差	0.70	0.57	P値	0.34		

表8 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：非社会性

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	4.54	統計量：t	1.44
平均	0.40	0.07	自由度1	9	自由度	9.75
不偏分散	0.49	0.11	自由度2	53	両側P値	0.18
標準偏差	0.70	0.33	P値	0.00 **		

表9 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：対人暴力

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	入院有りの標準偏差が		統計量：t	1.94
平均	0.00	0.11	0以下のため計算できない		自由度	53.00
不偏分散	0.00	0.18			両側P値	0.057
標準偏差	0.00	0.42				

表10 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：個人的支援

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.69	統計量：t	1.60
平均	0.40	0.76	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.45	自由度2	53	両側P値	0.11
標準偏差	0.52	0.67	P値	0.40		

表11 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：コミュニティ要因

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.64	統計量：t	0.79
平均	0.60	0.43	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.44	自由度2	53	両側P値	0.43
標準偏差	0.52	0.66	P値	0.43		

表12 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：ストレス

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.03	統計量：t	0.57
平均	1.30	1.20	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.24	自由度2	53	両側P値	0.57
標準偏差	0.48	0.49	P値	1.05		

表13 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：物質乱用

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.24	統計量：t	1.53
平均	0.60	0.28	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.71	0.32	自由度2	53	両側P値	0.13
標準偏差	0.84	0.56	P値	0.07		

表14 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：現実的計画

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.11	統計量：t	0.41
平均	0.90	1.00	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.54	0.49	自由度2	53	両側P値	0.68
標準偏差	0.74	0.70	P値	0.74		

表15 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：コンプライアンス

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.40	統計量：t	0.75
平均	0.70	0.56	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.33	自由度2	53	両側P値	0.46
標準偏差	0.48	0.57	P値	0.61		

表16 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：治療効果

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.10	統計量：t	0.32
平均	0.50	0.56	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.25	自由度2	53	両側P値	0.75
標準偏差	0.53	0.50	P値	0.75		

表17 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：治療・ケアの継続性

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.33	統計量：t	1.12
平均	0.80	1.04	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.18	0.41	自由度2	53	両側P値	0.27
標準偏差	0.42	0.64	P 値	0.17		

表18 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：17項目合計

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	55	統計量：F	2.46	統計量：t	0.23
平均	10.50	10.89	自由度1	9	自由度	63
不偏分散	10.94	26.95	自由度2	54	両側P値	0.82
標準偏差	3.31	5.19	P 値	0.15		

表19 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 通常でない思考

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.21	統計量：t	0.50
平均	0.50	0.63	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.61	自由度2	53	両側P値	0.62
標準偏差	0.53	0.78	P 値	0.20		

表20 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 幻覚に基づいた行動

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.08	統計量：t	0.18
平均	0.40	0.44	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.55	自由度2	53	両側P値	0.86
標準偏差	0.52	0.74	P 値	0.24		

表21 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 概念の統合障害

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.36	統計量：t	0.51
平均	0.40	0.30	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.36	自由度2	53	両側P値	0.61
標準偏差	0.52	0.60	P 値	0.65		

表22 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) 精神病的しぐさ

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.38	統計量：t	0.09
平均	0.10	0.11	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.10	0.14	自由度2	53	両側P値	0.93
標準偏差	0.32	0.37	P 値	0.63		

表23 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 不適切な疑惑

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	2.08	統計量：t	0.63
平均	0.40	0.56	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.55	自由度2	53	両側P値	0.53
標準偏差	0.52	0.74	P値	0.24		

表24 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：6) 誇大性

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が0以下のため計算できない	統計量：t	2.44
平均	0.00	0.13		自由度	53
不偏分散	0.00	0.15		両側P値	0.02 *
標準偏差	0.00	0.39			

表25 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 興奮・躁状態

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	53	統計量：F	1.02	統計量：t	0.12
平均	0.10	0.11	自由度1	9	自由度	61
不偏分散	0.10	0.10	自由度2	52	両側P値	0.90
標準偏差	0.32	0.32	P値	1.06		

表26 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 不安・緊張

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.80	統計量：t	0.27
平均	0.60	0.54	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.48	自由度2	53	両側P値	0.79
標準偏差	0.52	0.69	P値	0.35		

表27 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 怒り

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.75	統計量：t	1.91
平均	0.40	0.13	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.15	自由度2	53	両側P値	0.06
標準偏差	0.52	0.39	P値	0.20		

表28 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) 感情の平板化

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.32	統計量：t	0.15
平均	0.40	0.37	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.35	自由度2	53	両側P値	0.88
標準偏差	0.52	0.59	P値	0.69		

表29 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 抑うつ

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	2.42	統計量：t	1.10
平均	0.10	0.28	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.10	0.24	自由度2	53	両側P値	0.28
標準偏差	0.32	0.49	P値	0.15		

表30 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：6) 罪悪感

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が0以下のため計算できない		統計量：t	2.89
平均	0.00	0.17			自由度	53
不偏分散	0.00	0.18			両側P値	0.01 **
標準偏差	0.00	0.42				

表31 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：7) 解離

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	統計量：F	5.40	統計量：t	0.80
平均	0.10	0.02	自由度1	9	自由度	9.63
不偏分散	0.10	0.02	自由度2	53	両側P値	0.44
標準偏差	0.32	0.14	P値	0.00 **		

表32 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：8) 知的障害

変数	入院有り	入院なし	差	等分散性の検定		t検定	
n	10	54		統計量：F	1.12	統計量：t	0.12
平均	0.70	0.67	0.03	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.68	0.60		自由度2	53	両側P値	0.90
標準偏差	0.82	0.78	0.05	P値	0.73		

表33 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：9) 意識障害

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が0以下のため計算できない		統計量：t	1.00
平均	0.00	0.02			自由度	53.00
不偏分散	0.00	0.02			両側P値	0.32
標準偏差	0.00	0.14				

表34 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 対象行為への内省

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	2.25	統計量：t	1.08
平均	0.20	0.43	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.18	0.40	自由度2	53	両側P値	0.28
標準偏差	0.42	0.63	P値	0.19		

表35 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 対象行為以外の他害行為への内省

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.47	統計量：t	0.05
平均	0.40	0.39	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.39	自由度2	53	両側P値	0.96
標準偏差	0.52	0.63	P値	0.55		

表36 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 病識

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.77	統計量：t	0.71
平均	0.50	0.67	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.49	自由度2	53	両側P値	0.48
標準偏差	0.53	0.70	P値	0.36		

表37 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) 対象行為の要因理解

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.79	統計量：t	1.02
平均	0.50	0.74	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.50	自由度2	53	両側P値	0.31
標準偏差	0.53	0.71	P値	0.35		

表38 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 生活リズム

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.13	統計量：t	2.78
平均	0.70	0.22	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.46	0.21	自由度2	53	両側P値	0.01 **
標準偏差	0.67	0.46	P値	0.09		

表39 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 整容と衛生

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.65	統計量：t	0.98
平均	0.30	0.17	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.14	自由度2	53	両側P値	0.33
標準偏差	0.48	0.38	P値	0.25		

表40 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 金銭管理

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.95	統計量：t	0.56
平均	0.40	0.30	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.49	0.25	自由度2	53	両側P値	0.57
標準偏差	0.70	0.50	P値	0.13		

表41 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) 家事や料理

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.75	統計量：t	0.64
平均	0.40	0.28	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.49	0.28	自由度2	53	両側P値	0.53
標準偏差	0.70	0.53	P値	0.20		

表42 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 安全管理

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.08	統計量：t	0.10
平均	0.20	0.19	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.18	0.19	自由度2	53	両側P値	0.92
標準偏差	0.42	0.44	P値	0.98		

表43 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：6) 社会資源の利用

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.54	統計量：t	0.91
平均	0.20	0.07	自由度1	9	自由度	10.35
不偏分散	0.18	0.07	自由度2	53	両側P値	0.38
標準偏差	0.42	0.26	P値	0.03 *		

表44 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：7) コミュニケーション

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.37	統計量：t	0.76
平均	0.40	0.56	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.36	自由度2	53	両側P値	0.45
標準偏差	0.52	0.60	P値	0.64		

表45 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：8) 社会的引きこもり

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.34	統計量：t	1.03
平均	0.20	0.37	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.18	0.24	自由度2	53	両側P値	0.30
標準偏差	0.42	0.49	P値	0.67		

表46 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：9) 孤立

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.86	統計量：t	1.67
平均	0.20	0.52	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.18	0.33	自由度2	53	両側P値	0.10
標準偏差	0.42	0.57	P値	0.32		

表47 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：10) 活動性の低さ

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.03	統計量：t	0.20
平均	0.30	0.33	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.23	自由度2	53	両側P値	0.84
標準偏差	0.48	0.48	P値	0.86		

表48 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：11) 生産的活動・役割

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.93	統計量：t	0.19
平均	0.60	0.56	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.52	自由度2	53	両側P値	0.85
標準偏差	0.52	0.72	P値	0.29		

表49 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：12) 過度の依存

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.59	統計量：t	0.12
平均	0.20	0.22	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.40	0.25	自由度2	53	両側P値	0.90
標準偏差	0.63	0.50	P値	0.28		

表50 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：13) 余暇を有効に過ごせない

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.20	統計量：t	0.49
平均	0.30	0.39	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.28	自由度2	53	両側P値	0.62
標準偏差	0.48	0.53	P値	0.82		

表51 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：14) 施設への過剰適応

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.38	統計量：t	0.09
平均	0.10	0.11	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.10	0.14	自由度2	53	両側P値	0.93
標準偏差	0.32	0.37	P値	0.63		

表52 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 一貫性のない行動

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.15	統計量：t	0.61
平均	0.30	0.20	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.20	自由度2	53	両側P値	0.54
標準偏差	0.48	0.45	P値	0.69		

表53 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 待つことができない

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.67	統計量：t	1.31
平均	0.50	0.24	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.50	0.30	自由度2	53	両側P値	0.19
標準偏差	0.71	0.55	P値	0.24		

表54 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 先の予測をしない

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	1.56	統計量：t	0.15
平均	0.40	0.37	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.49	0.31	自由度2	53	両側P値	0.88
標準偏差	0.70	0.56	P値	0.30		

表55 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) そそのかされる

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.78	統計量：t	0.60
平均	0.10	0.20	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.10	0.28	自由度2	53	両側P値	0.55
標準偏差	0.32	0.53	P値	0.10		

表56 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 怒りの感情の行動化

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	入院有りの標準偏差が		統計量：t	2.44
平均	0.00	0.13	0以下のため計算でき		自由度	53.00
不偏分散	0.00	0.15	ない		両側P値	0.02 *
標準偏差	0.00	0.39				

表57 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 侮辱的な言葉

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	入院有りの標準偏差が		両変数の標準偏差がと	
平均	0.00	0.00	0以下のため計算でき		もに0のため計算でき	
不偏分散	0.00	0.00	ない		ない	
標準偏差	0.00	0.00				

表58 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 社会的規範の蔑視

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	54	統計量：F	2.75	統計量：t	0.61
平均	0.10	0.04	自由度1	9	自由度	10.24
不偏分散	0.10	0.04	自由度2	53	両側P値	0.56
標準偏差	0.32	0.19	P値	0.02 *		

表59 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 犯罪志向的態度

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が 0以下のため計算でき ない	統計量：t	1.00
平均	0.00	0.02		自由度	53.00
不偏分散	0.00	0.02		両側P値	0.32
標準偏差	0.00	0.14			

表60 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) 特定の人を害する

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が 0以下のため計算でき ない	両変数の標準偏差がと もに0のため計算でき ない	
平均	0.00	0.00			
不偏分散	0.00	0.00			
標準偏差	0.00	0.00			

表61 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 他者を脅す

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が 0以下のため計算でき ない	統計量：t	1.00
平均	0.00	0.02		自由度	53.00
不偏分散	0.00	0.02		両側P値	0.32
標準偏差	0.00	0.14			

表62 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：6) だます、嘘を言う

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	統計量：F	5.40	統計量：t	0.80
平均	0.10	0.02	自由度1	9	自由度	9.63
不偏分散	0.10	0.02	自由度2	53	両側P値	0.44
標準偏差	0.32	0.14	P値	0.00 **	片側P値	0.22

表63 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：7) 故意の器物破損

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)	
n	10	54	入院有りの標準偏差が 0以下のため計算でき ない	両変数の標準偏差がと もに0のため計算でき ない	
平均	0.00	0.00			
不偏分散	0.00	0.00			
標準偏差	0.00	0.00			

表64 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：8) 犯罪的交友関係

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.10	統計量：t	0.42
平均	0.10	0.06	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.10	0.09	自由度2	53	両側P値	0.67
標準偏差	0.32	0.30	P値	0.76		

表65 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：9) 性的逸脱行動

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)
n	10	54	入院有りの標準偏差が 0以下のため計算でき ない	統計量：t 1.00
平均	0.00	0.02		自由度 53.00
不偏分散	0.00	0.02		両側P値 0.32
標準偏差	0.00	0.14		

表66 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：10) 放火の兆し

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定 (Welchの方法)
n	10	54	入院有りの標準偏差が 0以下のため計算でき ない	統計量：t 1.00
平均	0.20	0.00		自由度 9.00
不偏分散	0.40	0.00		両側P値 0.34
標準偏差	0.63	0.00		

表67 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 退院後の治療プランへの同意

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定
n	10	54	統計量：F 2.05	統計量：t 0.63
平均	0.30	0.44	自由度1 9	自由度 62
不偏分散	0.23	0.48	自由度2 53	両側P値 0.53
標準偏差	0.48	0.69	P値 0.25	

表68 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 日中活動

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定
n	10	54	統計量：F 2.31	統計量：t 0.89
平均	0.40	0.63	自由度1 9	自由度 62
不偏分散	0.27	0.61	自由度2 53	両側P値 0.38
標準偏差	0.52	0.78	P値 0.18	

表69 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) 住居

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定
n	10	54	統計量：F 1.46	統計量：t 0.14
平均	0.40	0.37	自由度1 9	自由度 62
不偏分散	0.27	0.39	自由度2 53	両側P値 0.89
標準偏差	0.52	0.62	P値 0.56	

表70 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) 生活費

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定	t検定
n	10	54	統計量：F 1.60	統計量：t 0.14
平均	0.40	0.37	自由度1 9	自由度 62
不偏分散	0.27	0.43	自由度2 53	両側P値 0.89
標準偏差	0.52	0.65	P値 0.46	

表71 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 緊急時の対応

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	2.29	統計量：t	0.96
平均	0.40	0.65	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.61	自由度2	53	両側P値	0.34
標準偏差	0.52	0.78	P値	0.18		

表72 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：6) 関係機関との連携・協力体制

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.73	統計量：t	0.08
平均	0.50	0.48	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.48	自由度2	53	両側P値	0.94
標準偏差	0.53	0.69	P値	0.38		

表73 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：7) キーパーソン

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.52	統計量：t	0.47
平均	0.40	0.50	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.41	自由度2	53	両側P値	0.64
標準偏差	0.52	0.64	P値	0.51		

表74 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：8) 地域への受け入れ体制

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.98	統計量：t	0.30
平均	0.50	0.57	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.55	自由度2	53	両側P値	0.76
標準偏差	0.53	0.74	P値	0.27		

表75 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：1) 治療同盟

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	2.24	統計量：t	0.90
平均	0.10	0.24	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.10	0.22	自由度2	53	両側P値	0.37
標準偏差	0.32	0.47	P値	0.19		

表76 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：2) 予防

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	54	統計量：F	1.70	統計量：t	0.30
平均	0.60	0.67	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.45	自由度2	53	両側P値	0.77
標準偏差	0.52	0.67	P値	0.40		

表77 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：3) モニター

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
n	10	54	統計量：F	2.17	統計量：t	0.65
平均	0.50	0.67	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.28	0.60	自由度2	53	両側P値	0.52
標準偏差	0.53	0.78	P 値	0.21		

表78 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：4) セルフモニタリング

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
n	10	54	統計量：F	1.68	統計量：t	0.11
平均	0.70	0.72	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.23	0.39	自由度2	53	両側P値	0.92
標準偏差	0.48	0.63	P 値	0.41		

表79 退院後の精神保健福祉法の入院有り群と入院なし群の比較：5) 緊急時の対応

変数	入院有り	入院なし	等分散性の検定		t 検定	
n	10	54	統計量：F	2.24	統計量：t	0.33
平均	0.60	0.69	自由度1	9	自由度	62
不偏分散	0.27	0.60	自由度2	53	両側P値	0.74
標準偏差	0.52	0.77	P 値	0.19		

表80 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：精神病症状

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t 検定	
n	10	71	統計量：F	1.39	統計量：t	0.16
平均	0.80	0.76	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.40	0.56	自由度2	70	両側P値	0.87
標準偏差	0.63	0.75	P 値	0.62		

表81 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：非精神病性症状

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t 検定	
n	10	71	統計量：F	1.18	統計量：t	0.75
平均	1.20	1.01	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.62	0.53	自由度2	70	両側P値	0.46
標準偏差	0.79	0.73	P 値	0.65		

表82 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：自殺企図

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t 検定 (Welchの方法)	
n	10	71	問題行動あり群の標準偏差が0以下のため計算できない		統計量：t	2.59
平均	0.00	0.13			自由度	70.00
不偏分散	0.00	0.17			両側P値	0.01 *
標準偏差	0.00	0.41				

表83 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：内省・洞察

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.34	統計量：t	1.48
平均	1.10	0.77	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.54	0.41	自由度2	70	両側P値	0.14
標準偏差	0.74	0.64	P値	0.46		

表84 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：生活能力

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.58	統計量：t	1.21
平均	1.30	1.06	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.23	0.37	自由度2	70	両側P値	0.23
標準偏差	0.48	0.61	P値	0.47		

表85 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：衝動コントロール

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	2.57	統計量：t	1.36
平均	0.80	0.39	自由度1	9	自由度	10.01
不偏分散	0.84	0.33	自由度2	70	両側P値	0.20
標準偏差	0.92	0.57	P値	0.03 *		

表86 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：共感性

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.75	統計量：t	2.08
平均	0.90	0.49	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.54	0.31	自由度2	70	両側P値	0.04 *
標準偏差	0.74	0.56	P値	0.19		

表87 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：非社会性

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	8.22	統計量：t	2.45
平均	0.70	0.06	自由度1	9	自由度	9.31
不偏分散	0.68	0.08	自由度2	70	両側P値	0.04 *
標準偏差	0.82	0.29	P値	0.00 **		

表88 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：対人暴力

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.44	統計量：t	1.07
平均	0.20	0.07	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.18	0.12	自由度2	70	両側P値	0.29
標準偏差	0.42	0.35	P値	0.38		

表89 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：個人的支援

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	2.12		0.30	
平均	0.80	0.73	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.84	0.40	自由度2	70	両側P値	0.77
標準偏差	0.92	0.63	P値	0.08		

表90 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：コミュニティ要因

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	1.09		1.63	
平均	0.80	0.46	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.40	0.37	自由度2	70	両側P値	0.11
標準偏差	0.63	0.61	P値	0.76		

表91 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：ストレス

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	1.34		1.50	
平均	1.40	1.17	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.27	0.20	自由度2	70	両側P値	0.14
標準偏差	0.52	0.45	P値	0.47		

表92 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：物質乱用

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	2.39		1.11	
平均	0.60	0.30	自由度1	9	自由度	10.09
不偏分散	0.71	0.30	自由度2	70	両側P値	0.29
標準偏差	0.84	0.54	P値	0.04 *		

表93 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：現実的計画

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	1.13		1.36	
平均	0.70	1.03	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.46	0.51	自由度2	70	両側P値	0.18
標準偏差	0.67	0.72	P値	0.92		

表94 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：コンプライアンス

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	3.08		1.95	
平均	0.90	0.55	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.10	0.31	自由度2	70	両側P値	0.06
標準偏差	0.32	0.56	P値	0.07		

表95 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：治療効果

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.06	統計量：t	0.73
平均	0.70	0.58	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.23	0.25	自由度2	70	両側P値	0.47
標準偏差	0.48	0.50	P値	1.01		

表96 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：治療・ケアの継続性

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.01	統計量：t	1.20
平均	1.20	0.94	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.40	0.40	自由度2	70	両側P値	0.23
標準偏差	0.63	0.63	P値	0.88		

表97 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：17項目合計

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	72	統計量：F	1.63	統計量：t	2.32
平均	12.90	9.43	自由度1	9	自由度	80
不偏分散	29.88	18.33	自由度2	71	両側P値	0.02 *
標準偏差	5.47	4.28	P値	0.25		

表98 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：1) 通常でない思考

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.04	統計量：t	0.21
平均	0.60	0.55	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.49	0.51	自由度2	70	両側P値	0.83
標準偏差	0.70	0.71	P値	1.04		

表99 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：2) 幻覚に基づいた行動

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	2.66	統計量：t	0.93
平均	0.20	0.41	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.18	0.47	自由度2	70	両側P値	0.35
標準偏差	0.42	0.69	P値	0.11		

表100 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：3) 概念の統合障害

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
			統計量：F		統計量：t	
n	10	71	統計量：F	1.72	統計量：t	1.15
平均	0.50	0.28	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.50	0.29	自由度2	70	両側P値	0.25
標準偏差	0.71	0.54	P値	0.20		

表101 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：4) 精神病的しぐさ

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
n	10	71	問題行動あり群の標準偏差が0以下のため計算できない		統計量：t	2.85
平均	0.00	0.13			自由度	70.00
不偏分散	0.00	0.14			両側P値	0.01 **
標準偏差	0.00	0.38				

表102 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：5) 不適切な疑惑

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	71	統計量：F	1.10	統計量：t	0.03
平均	0.50	0.51	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.50	0.45	自由度2	70	両側P値	0.98
標準偏差	0.71	0.67	P値	0.75		

表103 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：6) 誇大性

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	71	統計量：F	1.19	統計量：t	0.01
平均	0.10	0.10	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.10	0.12	自由度2	70	両側P値	0.99
標準偏差	0.32	0.34	P値	0.84		

表104 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：1) 興奮・躁状態

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	71	統計量：F	2.27	統計量：t	1.14
平均	0.20	0.08	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.18	0.08	自由度2	70	両側P値	0.26
標準偏差	0.42	0.28	P値	0.05		

表105 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：2) 不安・緊張

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定	
n	10	71	統計量：F	1.15	統計量：t	0.77
平均	0.70	0.54	自由度1	9	自由度	79
不偏分散	0.46	0.40	自由度2	70	両側P値	0.44
標準偏差	0.67	0.63	P値	0.68		

表106 退院後の問題行動有り群と問題行動なし群との比較：3) 怒り

変数	問題行動あり	問題行動なし	等分散性の検定		t検定 (Welchの方法)	
n	10	71	統計量：F	3.85	統計量：t	1.70
平均	0.50	0.11	自由度1	9	自由度	9.67
不偏分散	0.50	0.13	自由度2	70	両側P値	0.12
標準偏差	0.71	0.36	P値	0.00 **		